

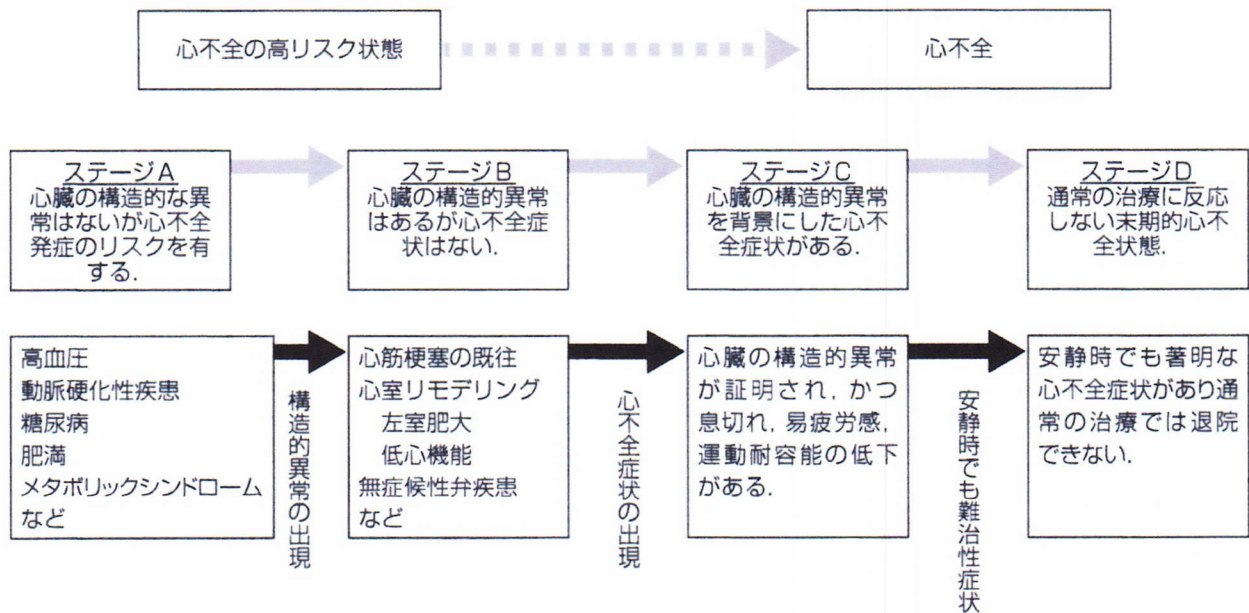
心不全について

藤原医院 藤原 武

心臓はポンプとして臓器、組織が必要とする血液を送り出しています。この機能が低下すると臓器組織の機能が維持できなくなります。この状態が心不全です。つまり、心不全とは「心機能低下により全身の組織代謝に必要な血液量を駆出できない状態あるいはそれを心室充満圧の上昇によってのみ維持できる状態」と定義されます。本日は、主に慢性心不全の分類と治療等に関してお話致します。

慢性心不全とは、“慢性の心筋障害により心臓のポンプ機能が低下し、末梢主要臓器の酸素需要量に見合うだけの血液量を絶対的にまた相対的に拍出できない状態であり、肺、体静脈系または両系にうっ血を来し日常生活に障害を生じた病態”と定義されます。その症状は、労作時呼吸困難、息切れ、尿量減少、四肢の浮腫、肝腫大等の症状の出現により生活の質的低下（Quality of Life ; QOL の低下）が生じ、日常生活が著しく障害されます。また致死的不整脈の出現も高頻度に見られ、突然死の頻度も高くなります。心不全はすべての心疾患の終末的な病態でその生命予後は極めて悪いとされています。

米国心臓病学会ガイドラインー慢性心不全のステージ分類を示します。



全世界的に心不全の患者数、死亡者数が急増しています。慢性心不全患者は高齢者が多く、増悪による再入院を繰り返すことにより、さらに悪性サイクルが進んでいきます。その原因は、服薬や塩分・水分制限の不徹底など予防可能な因子が多い為、自己管理能力(塩分制限、体重測定、服薬の遵守など)の向上が重要で、患者・家族および介護者への継続的な支援と教育が、再入院を減少させる効果が大きいとされています。

心不全の治療は、薬物療法、非薬物療法とも進歩しているが予後は依然として不良です。その理由は、心不全には収縮不全、拡張不全の2つがあり収縮不全の原因療法、拡張不全の有効な治療法が確立されていない為です。末期の心不全の予後は、胃癌(stage III)と同程度不良であり、発症予防が非常に重要です。0次予防(ステージAに対して)として、喫煙、塩分・脂肪過多、多量飲酒、運動不足の是正。1次予防(ステージBに対して)として、高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満症、心房細動の危険因子の治療による発症予防を積極的に行っていく必要があります。